

基本 目標	主要施策	事務事業				
		番号	事務事業名	評価 区分	評価	
Ⅰ 市民と行政との協働によるまちづくり	市民主体のまちづくりの推進	007	多様な広聴機会の創出	1次	A	町内会連合会との連携により、行政懇談会やまちづくり懇談会にてどのような提言がされているか直接関わり、また、一部であるが直接広報誌で発信し、市民共有を図れたと感じている。個人レベルでの広聴も、現在でも投書やメールなどで受けられるものであり、事業の重複しない形での実施を検討していきたい。
				WG	B	個人(大学生など若い世代)からの意見も取り入れる方法の検討を。出前トーク実施回数が活動指標として適切か。
				外部	A	若者・大学生から意見を聞くためには、依頼を待つのではなくアウトリーチも検討したほうが良い。
				2次	A	1次評価のとおり。大学生などから意見聴取を行うため、手段を含めて工夫と検討をしていく。
	交流活動の推進	012	名寄市・鶴岡市姉妹都市交流事業	1次	A	両市の産業まつりでの物産販売等により、藤島地域を中心とした交流から鶴岡市全体との交流に活動の幅を広げており、両市民の認知度も高まってきている。今後も市民団体が行う訪問事業、少年少女交流事業、物産交流事業等を側面から支援していくことは必要と考える。
				WG	A	アウトカムを設定し、成果指標に対する分析が必要ではないか。併せて、鶴岡市の魅力を発信し、広く市民の皆様へ訪問してもらおうなど、関わりを持ってもらえるような周知をお願いしたい。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
		014	ふるさと会交流事業	1次	A	会員の高齢化が進む中、今後も各ふるさと会の活動が円滑に行われるとともに、東京なよろ会以外でも会員増強に向けた新たな取組が始まるよう、名寄市の支援は必要である。
				WG	A	会員の高齢化を気にしつつ、若い世代の会員獲得に向けた取組を視野に名寄市としての支援が必要である。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
	018	移住促進事業	1次	C	利用者からは、生活体験を通して冬季間の利用希望や移住を検討したい等の感想を寄せられることもあり、今後も移住検討のために長期間滞在を希望した際に提供できるよう運用を継続しつつも、移住実績が少なく、利用時期の平準化の課題や利用者の減少から、規模を見直す必要があると判断。	
			WG	C	市民意見も反映し、事業を抜本的に見直す時期。ターゲットを明確にし、SNSも活用したPRを。	
			外部	C	移住された方の意見等も反映しながら継続した取組が必要。	
			2次	C	移住された方等の意見も反映し、利用促進に繋がるよう状況に応じて見直ししながら継続した取組を進めていく。	
効率的な行政運営	023	研修事業	1次	B	派遣研修及び職場研修に積極的に取り組み、職員の能力向上を継続的に進めていくことは不可欠である。令和2年度にeラーニングの開始後、研修の受講動向などのデータを注意深く見ながら、研修メニューの設定について検討を行う予定である。	
			WG	B	1次評価のとおり。eラーニング導入など研修機会確保の取組継続を。	
			外部	B	受講率が向上するよう、受講者の指名や非正規職員の研修の充実をお願いしたい。	
			2次	B	1次評価のとおり。非正規職員も含めて受講率向上に向けた取り組みを引き続き検討していく。	
Ⅱ 市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり	健康の保持増進	029	母子健康支援・親子教室事業	1次	A	こどもの健やかな発達と安心して妊娠・出産・子育てが行えるための重要な事業であり、事業への受診率が高く、現状のまま継続が必要と考える。
				WG	A	1次評価のとおり。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
	地域医療の充実	031	地域医療支援事業の推進	1次	A	名寄市立総合病院が地方・地域センター病院事業として地域医療支援室事業をスタートして以来、へき地診療所等からの要望により医師派遣事業を継続してきている。昨今の医療事情により、派遣日数は年々増加傾向にあり、地域医療の確保に貢献している。
				WG	A	派遣先医療機関からの負担金額について妥当な金額か検証する必要がある。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
	健康の保持増進	288	産婦健康診査・産後ケア事業	1次	A	産後うつや新生児への虐待予防等を図り、産後も安心して子育てを行ううえで重要な事業であることから、現状を継続させることが望ましいと考える。
				WG	A	1次評価のとおり。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
地域医療の充実	034	医療スタッフの充実	1次	A	地域医療確保のため重要な役割を果たしており、人的資源が不足する地域医療や地域保健健診についても維持・確保が図られている。	
			WG	A	勤務体制等の職場整備を行い、医療スタッフの更なる確保とともに、学資金返還猶予年数経過後、退職する職員が減少するよう職場改善も行う必要があると考える。	
			外部	A	1次評価のとおり。	
			2次	A	1次評価のとおり。	

基本 目標	主要施策	事務事業				
		番号	事務事業名	評価 区分	評価	
Ⅱ 市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり	子育て支援の 推進	045	乳幼児等医療 給付事業	1次	A	乳幼児等に対する医療費の助成は、少子化対策として全国的に助成範囲の拡大が進められている。本市においても令和2年10月診療分から小学生の通院においても全額助成を実施することで、子育てに対する負担軽減を図っており今後も継続して取り組んでいく必要があります。
				WG	A	1次評価のとおり。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
		048	子ども家庭総合 支援拠点事業	1次	A	児童虐待に係る対応だけではなく、不登校児童の対応が多くなっている。不登校児童においては、本人支援だけではなく、家庭的支援も必要な状況が多い。
				WG	A	支援が必要な家庭に対する家庭支援の情報提供をしっかりと行い、虐待等の減少につなげる必要があると考える。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
		050	相談支援事業	1次	A	今後、民間事業者による相談支援事業の受け入れを検討していく必要はあるが、一方で、国は、地域の障がい児支援の拠点施設の整備を求めてきている。国の動向を把握し検討する必要があるため、当面、現状のまま継続とする。
				WG	A	1次評価のとおり。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
	279	名寄市待機児 童解消緊急対 策事業	1次	A	待機児童解消のため必要な施策であり、引き続き事業を実施していく必要がある。	
			WG	A	保育料無料化の影響により、待機児童が増加しているとも考えられる。病院の看護師確保対策と同様に大学社会保育学科生徒に対する学資貸付金制度等の検討など保育士確保対策を強化すべきである。	
			外部	A	1次評価のとおり。	
			2次	A	1次評価のとおり。	
	高齢者施策の 推進	059	一般介護予防 事業	1次	A	何らかの支援を要する高齢者を早期に把握し、介護予防活動へつなげることができ、要介護状態になっても生きがい、役割を持って生活できる地域の構築に必要である。
				WG	A	支援を必要とする高齢者を早期に把握するためきめ細かな訪問等が必要と考える。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
		061	介護予防・生 活支援サービ ス事業	1次	A	介護予防・日常生活支援総合事業は、市町村が中心となり、地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実することにより地域の支え合いの体制づくりを推進するもので、第7期高齢者保健医療福祉計画・介護保険事業計画に基づき事業を展開するもの。
				WG	A	1次評価のとおり。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
289		介護人材就労 定着支援事業	1次	A	介護職員の不足解消に一定の効果があった。内容の拡充による離職防止・スキル向上につながっていると考えられる。	
			WG	A	1次評価のとおり。	
			外部	A	1次評価のとおり。	
			2次	A	1次評価のとおり。	
障がい者福祉 の推進	074	重度障害者ハ イヤー料金助 成事業／重度 視力障害者電 話料金助成事 業	1次	A	障がい者の自立した生活や社会参加を進めていく上で、必要不可欠な外出ができることや、連絡できる環境があることで、安心して地域で生活することができることから、今後も継続していく必要がある。	
			WG	A	障がい者はもちろんのこと障がい者施設に対しての周知も行っていく必要があると考える。	
			外部	A	1次評価のとおり。	
			2次	A	1次評価のとおり。	
国民健康保険	082	後発医薬品の 使用促進	1次	A	後発医薬品の使用促進については、国の保険者努力支援制度の中で指標や目標値が示されており、達成することで交付金に反映されることから加入者の負担軽減に繋がる。	
			WG	A	ジェネリック医薬品拡充のため、医療関係者への周知や薬局の在庫確保などが必要と考える。	
			外部	A	1次評価のとおり。	
			2次	A	1次評価のとおり。	

基本 目標	主要施策	事務事業				
		番号	事務事業名	評価 区分	評価	
Ⅲ 自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり	環境との共生	089	エネルギーに関する講習会等の開催による普及啓発	1次	B	企画課においては、エネルギーに関する講習会等の開催による普及啓発として事業を行っているが、環境生活課は温暖化対策啓発事業として、内容が近いものを実施している傾向にあるため。（「みんなの消費生活展」において環境生活課は「省エネクイズ」と「節電パネル展」を実施）
				WG	B	1次評価のとおり。今後、関係機関、関係団体と連携し進めてほしい。
				外部	B	1次評価のとおり。
				2次	B	1次評価のとおり。
	循環型社会の 形成	090	資源集団回収 奨励金交付事 業	1次	A	情報のデジタル化にともなう新聞・雑誌の発生量減により、資源収集量は微減の傾向にあるが、参画団体数は例年同程度を維持できており、実績をみながら不足を生じない程度の予算付けは必要である。
				WG	A	1次評価のとおり。
				外部	A	1次評価のとおり。
		2次	A	1次評価のとおり。		
		094	分別・資源化 啓発事業	1次	B	最終処分場の状況は、資源ごみが多く混在している状況であり、市民へのさらなる啓発、意識づけが必要である。現在行っている取り組みはどれも必要なものであり、名寄地区衛生施設事務組合と連携しながら、さらなる取り組みの強化が必要。
				WG	B	転入者に対してはガイドブック等の配布をしているが、市内転居者に対しては配布されておらず、区域ごとのごみ回収曜日が周知できていない。
	外部			B	1次評価のとおり。	
	2次	B	1次評価のとおり。			
	防災対策の充 実	101	情報伝達手段 の充実、防災 行政無線のデ ジタル化等	1次	D	情報伝達手段の手法等について、名寄市のリスクの高い災害に対応できるような手法が求められており、伝達手段も多様化してきているため、どのような方法がより効果的となるのかなど、改めて検討する必要がある。
				WG	-	評価することが難しい。今後導入しようとする方式、メリットデメリット、費用などの情報を公開し、事業推進を。
				外部	C	新たな防災システムが導入されるが、屋外スピーカーの設置など、全市民に情報がいきわたるようFMと併用したより良い方法を検討してほしい。
				2次	C	リスクの高い災害に対応できるよう、より効果的な情報伝達手段を引き続き検討していく。
	交通安全	107	体系的な交通 安全教育の実 施	1次	A	交通安全の実現に向け、名寄市交通安全運動推進委員会、名寄警察署、交通安全活動団体、町内会、教育関係等と連携した取り組みを進めており、継続した取り組みが必要である。また、悲惨な事故を繰り返さないための新たな啓発にも取り組んでおり、今後も課題意識を持った取り組みを構築する。
				WG	A	1次評価のとおり。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
	住宅の整備	123	公営住宅長寿 命化等事業	1次	A	未解体の政策空き家を含む等の理由から、入居率の目標値に達せず成果実績が下回ったが、名寄市公営住宅等長寿命化計画等に基づき、全体戸数を縮小する計画どおり、適正に公営住宅の長寿命化を進めている。今後も社会情勢の変化や住宅困窮者のニーズを把握しながら公営住宅の長寿命化を進める。
				WG	A	成果として、政策空き家件数を除いた実際の入居実績も示されると、成果達成具合がさらにわかりやすい。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
上水道の整備	134	配水管網整備 事業（給水区 域内の配水管 新設工事）	1次	A	水道未整備地区の解消のため継続して事業実施が必要。	
			WG	A	今後のアウトカム・アウトプットが示されていない。水道未整備区域の全体量に対して整備計画を設定することを検討していただき、進捗状況の検証を行ってください。	
			外部	A	1次評価のとおり。	
			2次	A	1次評価のとおり。	
下水道・個別 排水の整備	140	不明水対策事 業	1次	B	H29～R1に行った調査結果から、今後は維持修繕事業に取り入れ推進することが望ましいと思われる。	
			WG	B	維持修繕が最善方法であれば有効性はa評価とすべき。水処理経費低減から排水障害低減に変更としたため、評価結果は1次評価のとおり。	
			外部	B	環境変化による豪雨等は市民が不安に感じている部分でもあるので、排水障害が起こらないよう余裕を持った水処理対策を継続して実施してほしい。	
			2次	B	1次評価のとおり。排水障害を低減させるよう下水道機能の維持修繕に努める。	

基本目標	主要施策	事務事業				
		番号	事務事業名	評価区分	評価	
Ⅲ自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり	道路の整備	144 145	郊外幹線道路の整備 都市計画道路の整備	1次	A	国の方針により進捗状況は左右されるが、市民要望に応えるため事業完了に向け継続することが必要である。
				WG	B	事業の重要性や要望が高い事業であることから、整備予定延長のみを活動指標とするのではなく、満足度などの成果指標を設定して、整備する路線の優先度や成果を確認しながら進めていただきたい。
				外部	B	幹線道路、都市計画道路より生活道路の整備に関する要望が多い。工事の時期も含め、可能な範囲で計画的に整備を進めていただきたい。
				2次	A	幹線道路、都市計画道路については、外部評価の提言にもあるように、市民要望に応えるため、国からの交付金活用をメインに、可能な範囲で計画的な整備を継続し進めていく。
		146 147	市街地の道路整備 郊外地の道路整備	1次	A	国費の配当により進捗状況は左右されるが、市民要望に応えるため事業完了に向け継続することが必要である。
				WG	A	市内の未改良道路が多く残っている現状から、市民生活に関わる重要な事業であり、1次評価のとおり完了に向けて継続することが必要である。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
		160	橋梁長寿命化整備事業	1次	A	国費の配当により進捗状況は左右されるが、市民要望に応えるため事業完了に向け継続することが必要である。
				WG	A	1次評価のとおり。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
地域公共交通	163	バス路線の維持・確保	1次	C	バス利用者の減少と人件費の上昇などから毎年自治体負担の増加に歯止めがきかない状況にあるため規模・内容を見直す必要がある。予算規模については、前述の理由から増額となる。	
			WG	C	市民意見を集約し、路線見直しの検討必要。バス以外の車両導入、他交通機関による補充の研究を。	
			外部	C	デマンドバスや定期券の導入など、利用拡大・利便性向上に向けた検討をお願いしたい。	
			2次	C	増加傾向にある自治体負担を抑えるため、バス利用の現状を踏まえて、様々な検討をしていく。	
Ⅳ地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり	農業・農村の振興	171	農業振興センター事業	1次	A	農業分野においては、新たな品種や栽培技術が公表され、地域の気候に合ったものを選定していく必要がある。また、そうした取組により収益性の向上を図ることが、農業経営の安定につながることから、引き続き試験・研究と結果に基づく指導に取り組んでいく必要がある。
				WG	A	1次評価のとおり。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
		177	担い手育成支援事業	1次	A	ここ数年10名前後の農家子弟が後継者として就農している。事業活用の目的として、就農初期は規模拡大や経営の多角化を、継承準備期は収益性の向上に向けた支援としているが、本事業活用により経営の改善等将来に向け営農意欲の向上が図られている。
				WG	A	1次評価のとおり。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
		178	新規就農者確保対策事業	1次	A	新規就農希望者増を図るため、現在、短期で行っている農業体験実習事業の期間延長やリハーサル農業に係るハウス等施設の充実の検討。
				WG	B	年々、事業費が減っており令和2年度予算は前年度の100万円減となっている。1次評価では現状のまま事業継続とするA評価の一方で予算規模の増額を検討としているが、農業支援員の応募が年々減っているなどの課題があるならば、まずは事業全体を見直して、進め方の改善を図ることが必要と考える。
				外部	A	就農を希望する若者もいるので、新しいライフスタイルの提案もしつつ、継続した取組を。
				2次	A	自営のほか法人就農など、多様かつ地域に適した新規就農のあり方を引き続き検討・支援していく。
291	農地保全・多面的機能維持対策事業	1次	A	今後も地域の主体的な活動を支援し、農地・農業用施設の維持、管理に努めていく。また、農地を次世代へ引き継いでいくため、地域内での協議を推進していく。		
		WG	A	1次評価のとおり。		
		外部	A	1次評価のとおり。		
		2次	A	1次評価のとおり。		

基本 目標	主要施策	事務事業				
		番号	事務事業名	評価 区分	評価	
Ⅳ 地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり	森林保全と林業の振興	183	森林整備担い手対策事業 (森林作業員就業条件整備事業)	1次	A	森林整備の担い手である森林作業員の就労条件を良くすることは、森林整備の推進はもとより、地域への定住促進や山村振興対策などにつながることから今後も継続する必要がある。また、北海道の要領により実施されている事業のため継続が望ましい。
				WG	A	林業に従事する人材が高齢化に伴い、減少傾向にあることから、これからの若い世代の人材育成を進めていく上で経験者である作業員の就労改善は不可欠であり、1次評価のとおり森林整備の推進の観点より、今後の事業を継続する必要がある。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
	商業の振興	189	住宅改修等推進事業補助金	1次	A	市民の住宅改修ニーズに応えるとともに、地域経済の活性化、中小企業の人材育成や雇用の安定につながるよう、令和2年度から居住誘導区域内の事業内容を拡充した。
				WG	A	これまでの実績と達成度は大幅に目標値を上回っていることから、目標値の再設定の検討を求めます。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
	観光の振興	210	望湖台自然公園管理事業	1次	B	公園維持業務受託事業者の高齢化により業務範囲の見直しなどによる効率化が求められる一方、民間活力によるキャンプ場運営の活性化も併せて検討する。
				WG	D	老朽化に伴う施設撤去で利用人数の減少が進み、熊出没による利用者の安全確保が難しくなる負のスパイラルに陥っており、地域住民との抜本的な見直しを含めた話し合いが必要。また、キャンプ場活性化の検討は中途半端な委託等ではなく、制約がないよう民間資本100%での検討が必要と考える。
				外部	B	予算減額に取り組むが、利用状況などの必要な情報はHPを活用して発信していただきたい。
				2次	B	公園維持管理業務の効率化を目指しつつ、民間活力を活かして、昨今のニーズに合ったキャンプ場運営について検討していく。
217		観光振興事業	1次	A	名寄市観光振興計画を基に観光事業推進団体と連携して、地域イベント実施による市民満足度向上に加え、広域観光の推進による観光入込客数及び訪日外国人の増加に寄与している。	
			WG	C	今後、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、地域イベントの中止や訪日外国人の減少など様々な事業実施が不透明な状況であることから、とりわけインバウンド関係の予算や事業規模をゼロベースで検討する対応が必要と考える。	
			外部	A	1次評価のとおり。	
			2次	A	1次評価のとおり。	
Ⅴ 生きる力と豊かな文化を育むまちづくり	小中学校教育の充実	227	外国青年（外国語指導助手）招致事業	1次	A	令和2年度から小学校において新学習要領がスタートし、外国語が必修となり、必要度はますます高くなってきていることから、引き続き外国語指導助手の2名体制を維持していきたい。
				WG	A	1次評価のとおり。現場から要望があった場合は、増員の検討を。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
		231	スクールバス運行事業	1次	A	学校統廃合後の必要・不可欠な対策であり、対象となる児童・生徒数の増減を見据えスクールバスを適正に配置している。また、登下校以外にも課外授業等でも使用しており、現状のまま継続すべき事業。
				WG	A	1次評価のとおり。スクールバス車両の他事業への有効活用の検討を。
	大学教育の充実	240	コミュニティケア教育研究センター活動推進事業	1次	A	大学と地域の橋渡し拠点として、大学の人的・知的財産を多様に活用し、社会連携・社会貢献の取り組みを行っている。また、2018年度に受審した大学評価（認証評価）において、コミュニティケア教育研究センターの活動を中心とする「社会連携・社会貢献」分野は、4段階で最高の「S」評定を受けたことから、活動を継続する必要がある。
				WG	A	1次評価のとおり。COVID-19について多分野に関わるオンライン講座の開設に期待。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
		241	名寄市立大学卒業生の地元定着促進事業	1次	A	これまで地元に着し、名寄市の人口の維持及びまちの活性化に寄与する人材の育成に一定程度の貢献が果たされているという考えから、今後とも事業を継続することで、引き続き、よりいっそうの地元定着化を推進していくことが望まれていると考えている。
				WG	B	地元定着に向けてさらに事業の推進を。
外部	B	目標達成に向け、専門職の資格を活かせる就職先の誘致等、今後検討が必要である。				
2次	A	1次評価のとおり、成果実績から事業を継続推進していく。外部評価の提言にある就職先の確保については、検討していく。				

基本 目標	主要施策	事務事業				
		番号	事務事業名	評価 区分	評価	
V 生きる力と豊かな文化を育むまちづくり	生涯学習社会の形成	247	高齢者学級運営事業	1次	B	高齢者が自己の能力を開発し、現代社会に対応し充実した生活を送るため、多様な学習内容のカリキュラムを組み実施している。また、公開講座は、学生のみならず、市民誰でも参加できる講座を開催している。学生数の確保について急激な改善は困難だが、継続して魅力あるカリキュラムの構築やPRを行う。
				WG	B	1次評価のとおり。学生数減少に合わせた各大学のこれまでの形にこだわらず、高齢者学級の今後の在り方の検討を。
				外部	B	他自治体の内容も参考にするとともに、昨今の情勢も踏まえ、オンラインでの実施なども検討しながら推進していただきたい。
				2次	B	他自治体の内容も参考にするとともに、昨今の情勢も踏まえ、安全に配慮しながら推進していく。(オンラインでの実施等は、高齢者であるため機械操作など困難な面がある。)
	スポーツの振興	257	スポーツセンター改修事業	1次	A	市民皆スポーツ・市民の生涯スポーツの振興は、市民の健康増進・生きがいづくり・青少年教育を構築し、そのステージとなる体育施設の整備は必要不可欠である。ただし、築44年と老朽化が進行していることから、財政状況を鑑みながら延命措置を目指した適正な整備・修繕が必要となる。
				WG	A	1次評価のとおり。今後は個別施設計画により計画的に施設の管理を。トレーニング室利用増は、運用で混雑回避の検討を。
				外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。
		262	冬季スポーツ拠点化事業	1次	B	産学官によるNスポーツコミッションによる事業展開により市民の関心・参加率が向上しており、多世代・他分野への波及効果が期待でき、これらの動きは地方創生の大きな原動力となる。合宿受入数については、新型コロナウイルスの影響が大きいとともに対策を講じることができないが、終息次第、誘致事業を展開していく。
				WG	B	1次評価のとおり。冬季スポーツ合宿のPRを。夏季の合宿誘致し、施設の利用促進を。
				外部	B	1次評価のとおり。
				2次	B	1次評価のとおり。
	青少年の健全育成	264	子どもの体験学習事業	1次	B	青少年の野外自然体験、集団生活体験として事業の趣旨に沿って実施しており、3泊4日の中で充実した事業を遂行しており、青少年の健全な育成を図っている。
				WG	B	1次評価のとおり。スタッフ数に依じた参加人数で実施。現在の内容で継続を。
				外部	B	参加定員の見直しありきではなく、受益者負担や予算の増額などによりボランティアを有償とすることも検討しつつ、今後も安全対策に留意しながら継続してほしい。
				2次	B	受益者負担や予算の増額などによりボランティアを有償とすることも検討しつつ、今後も安全対策に留意しながら継続していく。
		265	青少年活動事業の実施	1次	B	子ども会事業の充実がまちづくりの基礎的な事業であり、今後も青少年の健全育成を地域全体で担う必要がある。平成29年度に内容を強化したことで、子どもたちの育成・交流により効果が見られたことから、今後も内容の見直しを随時行いながら充実した取り組みに努める。
				WG	B	関係機関と連携し周知強化を。育成したリーダーのまちづくりへの活用検討を。
				外部	B	ボランティアをNo.264子どもの体験学習事業と兼ねて活用するなど、事業の連携を検討してはどうか。
				2次	B	ボランティアの確保など、運営面での課題もあることから、同様の事業との連携などを含め検討していく。
270		放課後子ども教室の充実	1次	B	年32回の教室開催において、自学自習とテーマ学習により、児童生徒が自ら学ぶ意欲を高めたり学び方を身に付けたりしている様子が見られることから。	
			WG	B	1次評価のとおり。子どもたちの居場所の観点から、試験的に「子ども食堂」の役割を加えることの検討を。	
			外部	B	放課後の子どもたちの居場所づくりについては他の分野でも行われており、それぞれ目的は異なると思うが連携も検討してほしい。	
			2次	B	他の分野などとの連携については、それぞれ目的や実施回数などが違うことなど課題もある。また、参加者側からすると多様な参加機会が確保されるといったメリットもある。	
地域文化の継承と創造	276	地域の歴史、自然、文化に関する普及啓発	1次	A	現状維持を図るとともに協力団体や道内博物館との連携を図り事業展開を進めたい。	
			WG	B	成果目標(利用人数)の見直しも必要ではないか。今後も必要と考える事業の企画実施を。	
			外部	A	常設展示のリニューアルなども可能な範囲で検討してほしい。	
			2次	A	展示方法を工夫したり、タイムリーな企画展・特別展などを実施し、市民に親しまれる博物館を目指す。	